

令和2年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価（3月30日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①SSHの取組を充実させ、文理に関わらない問題解決能力の育成を図る。</p> <p>②令和4年度から年次進行で始まる新教育課程に向けて、生徒に最適な教育課程の編成を行う。</p>	<p>①COVID-19の影響に鑑みて、生徒の過度な負担とならないように学習内容の精選を行い、授業を展開する。</p> <p>②新教育課程の編成作業を進めていく。</p>	<p>①Teams等を活用して自宅学習の充実を図り、授業で扱う内容の精選を図る。</p> <p>②教科代表者会議を活性化し、SSH及び学力重点進学エントリー校として、生徒の進路実現に最適な教育課程を編成する。</p>	<p>①Teams等を活用した課題や授業動画の発信や双方向授業等の実施状況。</p> <p>②新学習指導要領に準拠し、かつ本校生徒の進路希望を支援できる教育課程を編成したか。</p>	<p>①夏季休業の大幅な短縮、2学期制への変更等の対応、定期テストの回数や日程の見直しを行い、授業時間を確保できた。</p> <p>②Teams等を活用したオンライン授業や動画・課題の配信を行った。対面での協議を行えない中でも主体的・対話的で深い学びにつながる授業展開について共有し研究できた。</p> <p>③教科代表者会議にて、生徒の進路実現に向けた最適な教育課程編成を進められた。</p>	<p>①県のCOVID-19感染防止対策の指針や感染状況次第では、年間指導計画の大幅な見直しが必要となる。</p> <p>②今後も、TeamsやICT機器を授業に取り入れ、多様な授業展開を目指す。ICTを活用した組織的な授業改善を進め、より良い授業展開を研究し、実践する。</p> <p>③編成作業を進めている新たな教育課程の更なる改善を図る必要がある。</p>	<p>①各教科の目標達成のための具体的な取組みが、評価の観点と関連付けられていない点が多く、報告書としてまとまりが感じられない。</p> <p>②COVID-19の影響により、通常とは違う教育課程の実施及び学習指導を余儀なくされた苦労が伺える。対面指導に制限がある中、オンライン授業や動画配信を試み、生徒の学習保障及び学力の定着を図ったことは素晴らしい。また、一方通行だけでなく、双方向への取組は大切なことである。学びの場として、集団での活動も大切なので、COVID-19が収束した際、すぐ対応できるよう準備を進めるとよい。</p>	<p>①休業期間中にはTeamsやFormsを活用し、課題や解説・実験動画の配信を行い、学習内容の理解へと繋げることができた。学校再開後においても、ICTを活用することで、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を展開することができた。</p> <p>②教科代表者会議にて、生徒の進路実現に向けた最適な教育課程編成を進めたが、更に検討を続け、改善していく必要がある。</p>	<p>①ICTを活用した授業展開や課題の配信等を今後も積極的に活用し、日々の授業にいかしていく。</p> <p>②COVID-19の感染状況によっては年間指導計画を見直すための準備を整えておく必要がある。</p> <p>③教科代表者会議を活性化し、企画会議や職員会議で生徒の進路実現に最適な教育課程について、引き続き検討していく。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①生徒主体の生徒会活動を継続し、社会に貢献できる人材の育成を図る。</p> <p>②前4年間で構築した教育相談体制をさらに発展させる。</p>	<p>①学習と部活動の両立をより高めていく意識付けをしていく。</p> <p>②課題のある生徒に対して組織的に支援する意識をさらに高めていく。</p>	<p>①毎日の活動後や定期試験前の時間を有効に活用させる。</p> <p>②気になる会議を通して情報の共有を密にし、効果的な手立てを考える。</p>	<p>①各部で学習時間を確保するための下校時刻の徹底ができたか。</p> <p>②会議が有効に行われ機能し組織的な支援ができたか。</p>	<p>①感染状況が変化中、生徒が自主性を発揮し、教員が柔軟な対応をすることで、安全に活動できた。</p> <p>②生徒に「新たな日常」であることを意識させ、すべての活動で、協調性を持って活動することができた。</p>	<p>①開催できなかった行事や部活動の企画をどのように継続していくか検討する。</p> <p>②年々増える生徒指導事案の未然防止と、円滑な対応について検討する。</p>	<p>①多くの行事が中止や延期、内容変更されることが多かったと思う。生徒は楽しみにしており、工夫して実施できたことは称賛に値する。</p> <p>②生徒に関する日常的な情報共有・学年会での共有、さらに、「気になる生徒会議」を通して、組織的に支援するという意識を教員間で持つことができた。</p>	<p>①COVID-19の影響次第で、日程や運営方針を変更せざるを得ないが、安全に開催するためのガイドラインを作成し、計画的な企画・運営を心掛ける。</p> <p>②Teams活用について、生徒と教員のリテラシー向上を図る。</p> <p>③引き続き情報の共有を図り、進路実現に向けた不安をやわらげ、支援体制をより強化していく。</p>	
3 進路指導・支援	<p>①学習活動やSSHの取組を活用し、新入試に対応した進路指導體制を構築する。</p> <p>②自分の将来を見据え、妥協のない進路選択ができるよう、個別指導を充実させ</p>	<p>①主催行事の質的向上に努める。</p> <p>②生徒個々に対して、新入試に対応した進路指導を保護者と連携しながら行っていく。</p>	<p>①主催行事を見直し3年間を見据えたキャリア教育を構築していく。</p> <p>②生徒・保護者に迅速な情報発信を行う。</p>	<p>①主催行事の精査など生徒へのキャリア支援が行えたか。</p> <p>②ICTなどを用い迅速な情報発信が行えたか。</p>	<p>①キャリア教育の年間スケジュールを作成し、コンテンツを整備し、LHRを利用して行うことができた。</p> <p>②学校推薦型選抜の選考方法を見直すとともに、オンライン面接など新しい選抜方法についての指導を実施で</p>	<p>①年間指導計画の見直しで、キャリア教育を十分に行えなかったため、スケジュールを見直し、効果的にキャリア教育を行う必要がある。</p> <p>②選抜方法について再検討し、学力向上進学重点</p>	<p>①「生徒一人ひとりのニーズや現状把握、生徒のキャリア意識とキャリアデザイン」が重要なので、より具体的に目標設定すべき。その点では、次年度以降につなげるための課題や改善方策があいまいに感じる。</p> <p>②多くの生徒が進路について不安を抱えていたと思う。そのような中で、</p>	<p>①高大接続改革の情報を積極的に生徒・保護者・教員に向け発信する。</p> <p>①LHR等を利用して、生徒が早期にキャリア意識を育めるよう努める。</p> <p>②引き続き、学校推薦型選抜の選考方法の改善を進めるとともに、学力向上進学重点校エントリー校としての在り方について検討していく。</p>	<p>①教員が大学入学者選抜についての理解を深め、生徒に様々な情報を提供できるようにする。</p> <p>①引き続き、情報を共有し、進路実現に向けた不安をやわらげ、支援体制をより強化していく。担任等が、生徒と進路について話し合う機会をより多く設けるよう促す。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	る。				きた。 ②Teamsを利用して大学入試情報を生徒・教員全体に周知するとともに、COVID-19の影響で英語検定の校内で実施できた。	校エントリー校としての在り方を模索する。 ②情報提供を継続し、担任等が生徒と進路について話し合う機会を増やす。	様々な支援をしてきたことは大事である。		②Teamsを利用して大学入試に関する情報を生徒・教員全体に周知するとともに、オンライン面接など新しい選抜方法に関する指導を行っていく。
4 地域等との協働	①家庭や地域、同窓会等の共同を進め、開かれた学校作りのさらなる発展を進める。 ②SSHの活動を他の教育機関や地域との連携を進め、コンソーシアムの構築を進める。	①学校運営協議会の各部署の活性化をさせていく。 ②SSHの取組について、HP等を通じて広く情報発信していく。	①学校評価部会以外の部会の設置ならびにその活動を実現していく。 ②HPや学校説明会、個別見学等で、SSHの取組など本校の教育内容の特色を伝えていく。	①学校評価部会を含めた各部署の設置状況と開催回数、活動内容。 ②学校説明会の開催回数や個別見学への参加人数。	①4年間の教育計画をまとめ、その計画に基づき1年間の学校目標を設定できた。 ①学校説明会と個別学校見学を行い、教育計画を入学希望者に周知した。また、学校説明会の内容をWebで公開した。 ②オンラインで講義や生徒の成果発表を行うことで、感染拡大の状況下でも事業を進めた。こうした成果を今後も引き継ぐ。感染防止の観点から一部実験実習が実施できず、延期、縮小を余儀なくされた。	①COVID-19の影響のため、8月まで学校説明会が実施できず、10～12月の学校説明会では参加希望者の受け入れに苦慮した。次年度の動向が読めないため、様々な状況に応じた計画が必要である。 ②事業の延期や縮小で、全体の進行計画の変更について検討が必要である。感染症への対応が継続して求められる中で、可能な実験観察の手法や課題研究の進め方を開発していく。	①希望ヶ丘小学校との毎年行っている交流がすべて中止になった。仕方ないことだが、今後の交流について、先行きは不明だが、実施を継続していくことの確認はしておきたい。	①COVID-19の影響により今年度の学校運営協議会の全てが書面開催となってしまった。学校運営協議会及び各部署の体制を整えていく必要がある。 ①②COVID-19の影響により開催できなかった学校説明会などがあり、広報の機会を十分に設けることができなかった。 ②引き続き、感染拡大の状況下でも事業を進めていけるように、臨機応変な対応が求められる。	①学校運営協議会の各部署の体制を早急に整えて活動を活性化させていく。 ①②COVID-19の影響に鑑み学校説明会や個別見学会等、広報の機会について柔軟な計画が必要である。 ②これまでのオンラインでの講義や生徒の成果発表を今後も引き継いでいく。SSHの取組について、ホームページなどを通じて、情報発信していく。 ②Webを利活用した広報の機会について、引き続き検討していく。
5 学校管理 学校運営	①働き方改革に向けて、コミュニケーションツールの活用など業務の効率化を図る。 ②社会から新たに要求される様々な教育ニーズに対応できる教員指導力の向上を目指す。	①Teamsなどの利活用により、ペーパーレス化や会議のスリム化を図る。 ②校内外の研修会を利活用し、教員指導力の向上とともに、事故防止に努める。	①Teamsによる職員会議を実施し、ペーパーレス化を行うほか、放課後の会議時間短縮に努める。 ②研修会を行い、生徒への情報発信を円滑にできるように努める。 ②会計処理ルールを徹底し、事故を防止する。	①Teamsによる職員会議の回数と職員会議の終了時間。議事録の閲覧をチャットにすることによる紙の消費量の減少。 ②研修会の開催回数及び事故防止注意喚起資料の配付回数。	①②臨時休業期間にICTの利活用が増えたこともあり、他教科での取組を紹介する研修を開催し、職員の意識を高めた。 ①職員室の密を防ぐため、大会議室にネットワークケーブル工事をグループで行い、感染防止に努めた。	①②グループ員の授業準備等の業務と、他の教職員への対応業務が重なりスムーズにできなかった。 ①会議室も利用できることの周知が不十分だったため、利用者が少なかった。	①すべてのグループにおいて、COVID-19の影響により年度当初の計画に大きな支障があったと思うが、当面は感染症に対する配慮を継続せざるを得ない状況である。次年度以降は臨機応変に対応できる計画設定を望む。 ①働き方改革を実現するために、職員室等のネットワークを物理的に充実させるとともに、教職員の意識改革も必要である。	①②不祥事防止に関する各種研修を通して、職員の意識を高めていく。ICTに関する研修会等を企画し、教員が円滑に情報発信できるよう努める。 ②会計の手引きに基づき、会計処理の手順を徹底する。	①Teamsによる研修やICT機器を利活用するなどして、教員が参加しやすい研修会を企画・運営していく。 ②引き続き、各種伝票の使用に関するルールの順守を徹底していく。